

青蓮寺阿弥陀堂(球磨郡多良木町)

ここが青蓮寺/正面に建つのが阿弥陀堂/室町時代中期再建/重要文化財

 [video](#)



説明板/鎌倉時代初期の建久4年(1193年)に多良木の地に下向した、遠江国(今の静岡県西部)相良荘の武士であった相良頼景の菩提を弔うために、鎌倉時代の永仁3年(1295年)に上相良三代頼宗が創建したもの/熊本県内最大の茅葺の堂宇

しょう れん じ あ み だ どう

青蓮寺阿弥陀堂

た ら ぎ さ が ら し 多良木と相良氏

相良氏の伝承では、鎌倉時代初期の建久四年(1193)、遠江国(今の静岡県西部)相良荘の武士である相良頼景が多良木に下向し、その5年後に頼景長男の長頼が人吉荘に下向してきたことで、多良木相良(上相良)と人吉相良(下相良)と呼ばれる二つの相良家ができました。

両家は南北朝時代には数度にわたり抗争し、室町時代中頃の文安5年(1448)になると相良一族の永富長統が人吉相良を継ぎ、多良木相良を滅ぼして相良氏を一統とし球磨郡をまとめます。戦国時代になると芦北郡や八代郡に進出し、人吉城と八代城を本拠に肥後国南半分を領地とする大名に成長しました。

関が原合戦を生き残った相良氏は、明治維新まで球磨郡の領主として存続しました。多良木下向から674年間、同じ地域に領主として存続した数少ない武家の一例です。

しょう れん じ あ み だ どう 青蓮寺阿弥陀堂(国指定重要文化財)

多良木相良3代目の頼宗は、九州相良家の初代となる曾祖父頼景の供養のために、永仁3年(1295)にその埋葬所に阿弥陀堂を創建し、3年後には頼景夫人の青蓮尼の位牌所として青蓮寺を建立しました。現在重要文化財となっている阿弥陀堂は、560年前の室町時代中ごろに再建されたお堂で、広さ10m×10m、茅葺き屋根の高さは13mあり、県内最大の茅葺きの堂です。

もく ぞう あ み だ にょらいおよ りょうわきじりゅうぞう 木造阿弥陀如来及び両脇侍立像(国指定重要文化財)

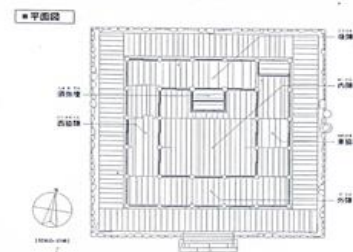
堂の内部は内陣と外陣に別れ、内陣奥に阿弥陀三尊(阿弥陀如来立像・観音菩薩立像・勢至菩薩立像)を安置します。これらの仏像は阿弥陀堂創建と同時に京都の「院玄」という仏師によって作られた美術的にも大変すぐれた彫刻です。

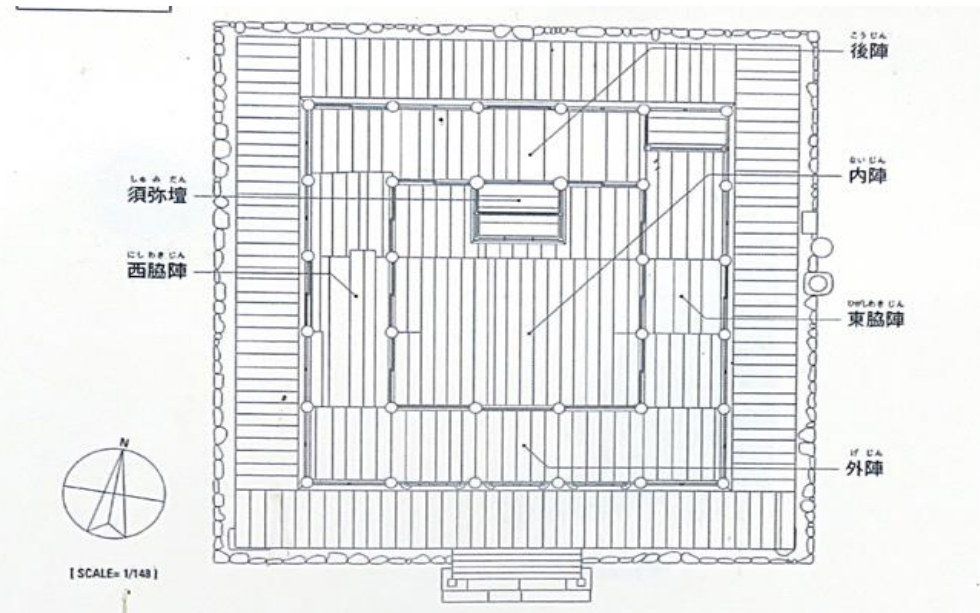
もく ぞう じ ぞう ぼ さつりゅうぞう 木造地藏菩薩立像(県指定重要文化財)

外陣右奥の地藏菩薩立像は、正応元年(1288)に造られた像高155cmの木像です。明治まで深田の荒茂山勝福寺にあった仏像で、廃寺によって青蓮寺に安置されたと伝わっています。

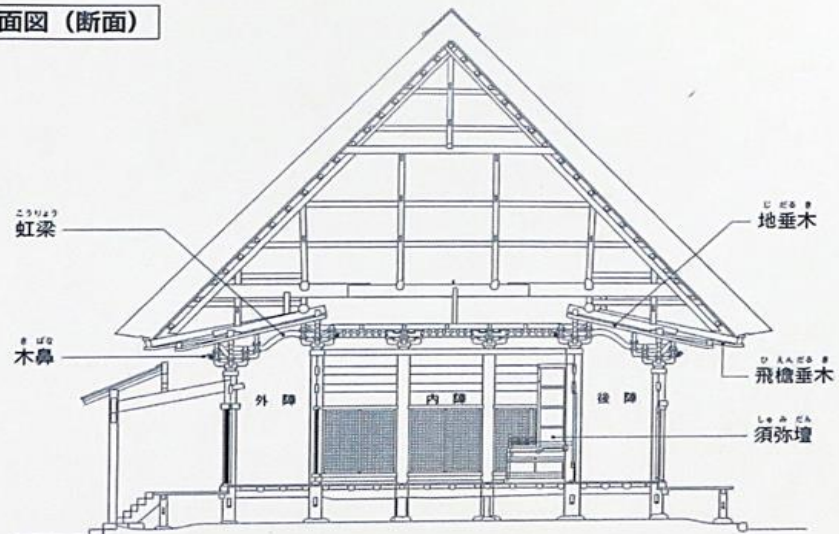
しょう れん じ こ とう ひ ぐん 青蓮寺古塔碑群(県指定史跡)

阿弥陀堂背後の斜面にある石塔群は、相良頼景などの相良氏一族の供養塔や住職の墓石で、五輪塔78基、石塔婆22基が立ち並んでいます。多良木町蓮花寺跡古塔碑群や人吉市願成寺の「相良家墓地」とともに相良氏の永い歴史を証明するものです。





■ 側面図 (断面)



「国指定重要文化財 青蓮寺阿弥陀堂」と刻まれた標柱



こちらにも説明板が立つ



青蓮寺阿彌陀堂(国指定)

御堂は広さ五間四面の茅葺にして軒高は約4.8m、軒より棟まで高さ約7.58m、即ち方形のプランを有する単層の木造大建築です。堂内は内軒、外軒に別れ、柱は内外すべて丸柱です。四方は廻縁を付し、外観は一見極めて素朴ですが専ら鎌倉時代の荘重、雄健の感をよく表現しています。なお、御堂は鎌倉時代、永仁3年(1295年)上相良三代頼宗が初代頼景公菩提のため創建したものです。

阿彌陀如来立像、一身並脇侍菩薩像二身(国指定)、木造地藏菩薩立像、古墳塔群(県指定)などの文化財が見られます。

環境庁 熊本県

桁行五間、梁間五間/寄棟造の分厚い茅葺き屋根に向拝一間が付く

[video](#)



右手から見たところ





棧唐戸と板張りの外壁／組物は出組／四周に縁が廻る

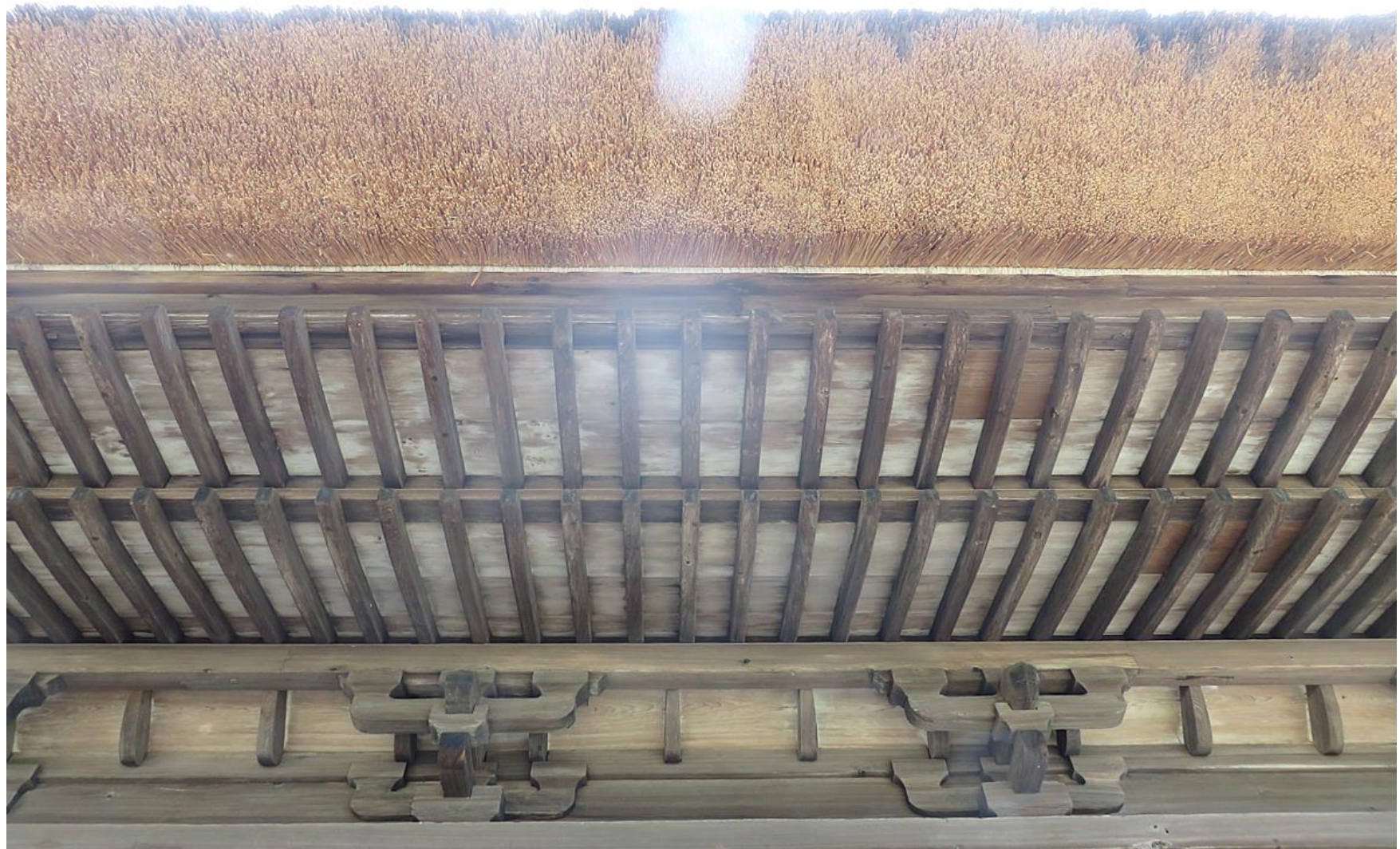


柱は丸柱で、その上の台輪に大斗がのる/通し肘木と丸桁の間は丸みの無い軒支輪

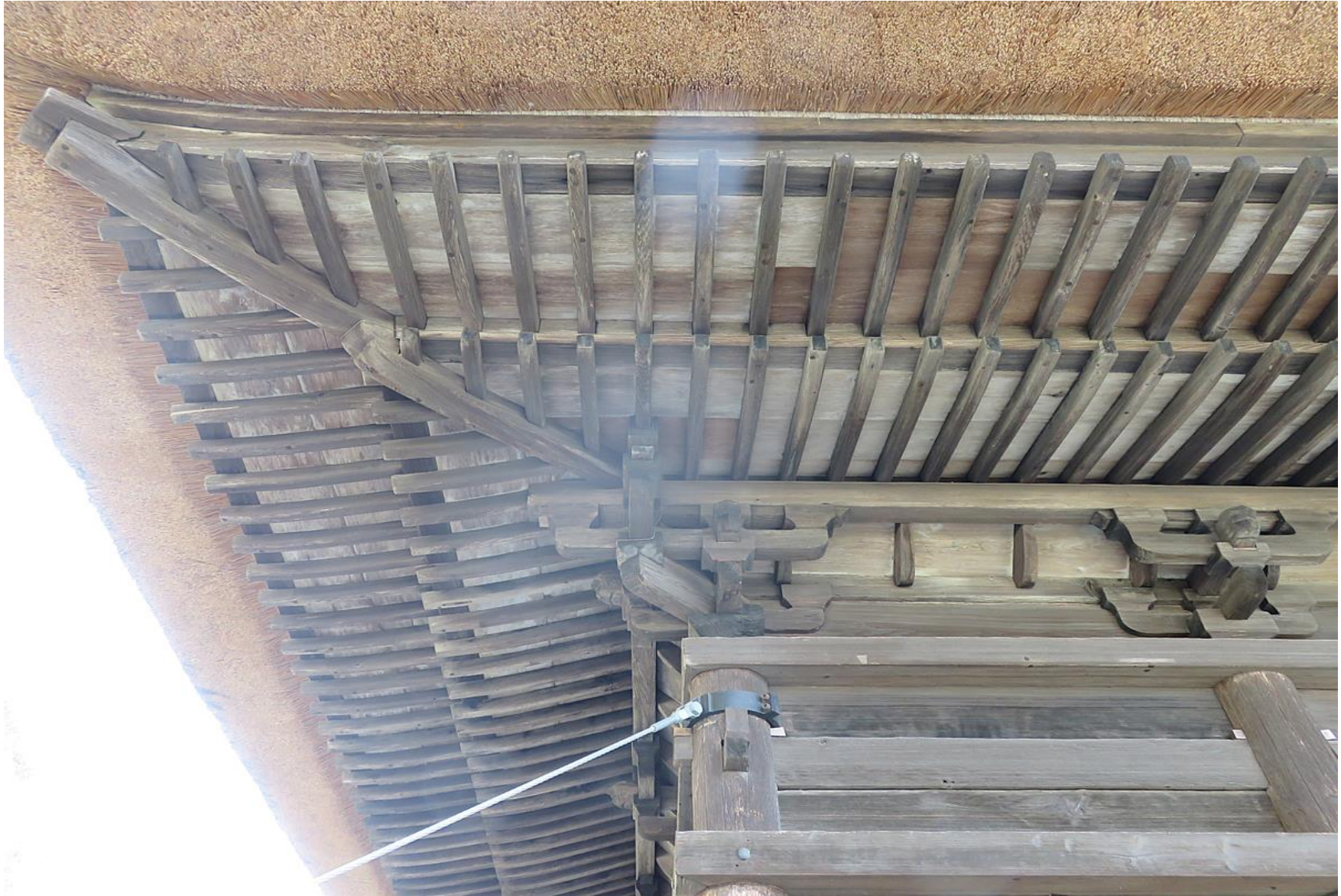
[video](#)



二軒に分厚い茅葺き屋根がのる



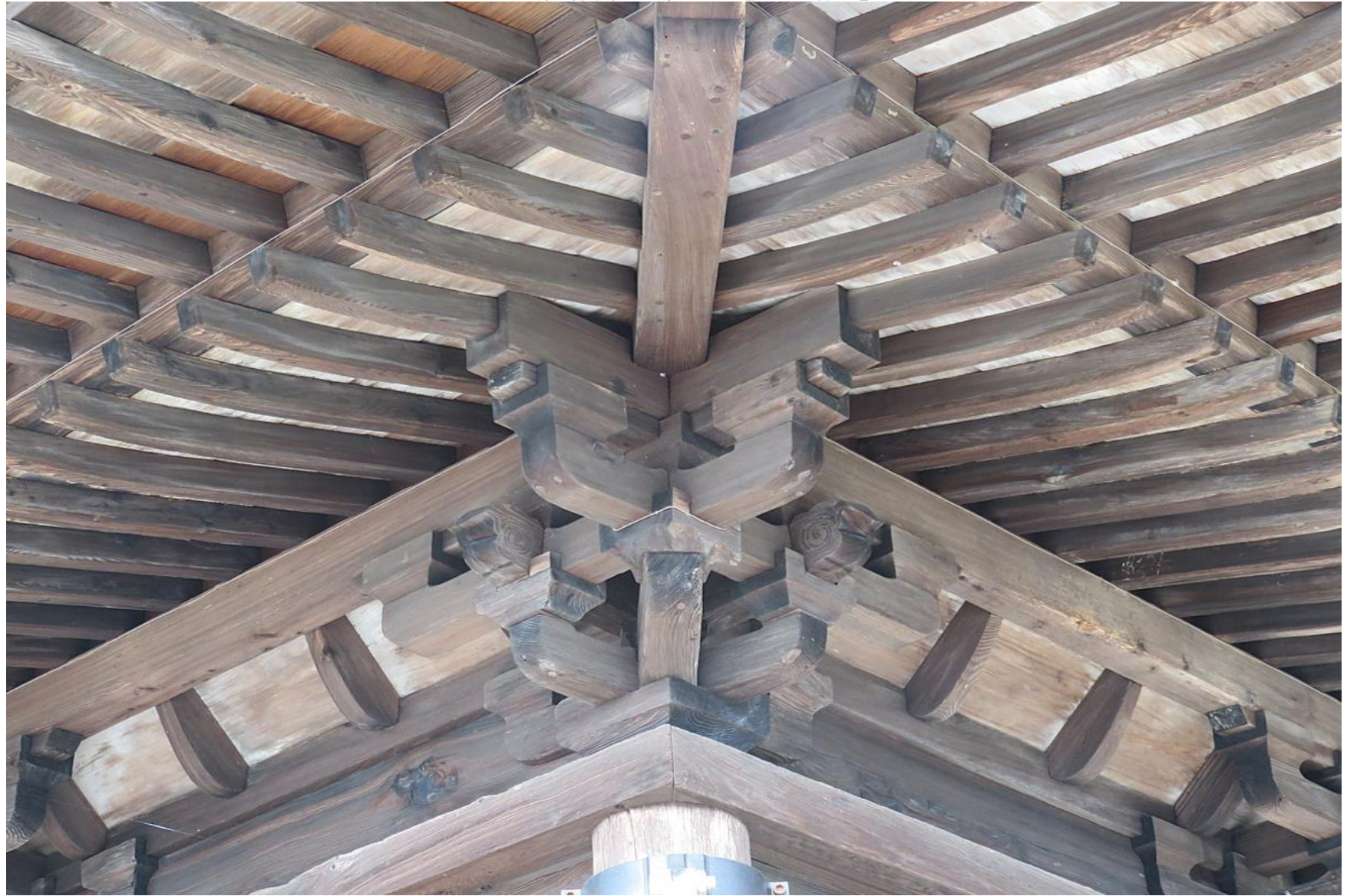
端部の様子



アップで見たところ



出組の肘木の先端は禅宗様と思われる渦巻き状の繰形をしている



阿弥陀堂の背後に回ると、青蓮寺古塔碑群の標柱と説明板が立っていた





熊本県指定史跡 青蓮寺古塔碑群

昭和44年3月20日指定

この古塔碑群は、いずれも上相良一族にゆかりの深い塔碑といわれ、5輪塔78基の他板碑等石造物22基を数える。

この五輪塔群の中の1基には、北方涅槃門の地輪中央に刻まれた梵字 𑖀𑖃𑖦𑖥𑖪𑖨 (不空成就如来の種子)の右に、「蓮寂」という追刻が見られる。蓮寂は、建久4年(1193)、遠江国相良荘(静岡県榛原郡相良町)から肥後国多良木村に下向した相良頼景の法名であり、この五輪塔は頼景の墓と伝えられている。

このほか、いずれも無銘のため確証はないが、青蓮尼(頼景の夫人で土豪須恵氏の娘)、上相良第2代頼氏、第3代頼宗、第4代経頼、第5代頼仲、第6代頼忠、第7代頼久、そして文安5年(1448)、下相良第11代長統に滅ぼされた第8代頼観らの墓もあるといわれている。

熊本県教育委員会

別の説明板



ここには80基を越える五輪塔、板碑がある。これらは周辺に散在していたものを集めたもので、多くのものが、無銘かまたは銘文が磨損しており、判読できない。寺伝やこの地方の史料からいずれも上相良一族にゆかりが深いものと思われる。

この中の五輪塔の一つに「蓮寂」と追刻されたものがある。蓮寂とは建久4年（1193年）に遠州相良荘からこの地に下向した相良頼景の法名で、この五輪塔は頼景の墓であると伝えられている。この他にも無銘のもので、青蓮尼（頼景の妻）や、上相良氏第八代までの歴代の墓と伝えられる五輪塔がある。

古塔碑群

 video



上相良一族の五輪塔



そこから見た阿弥陀堂

 [video](#)



